

# 中海の漁業実態調査（刺網、ます網）

（汽水域有用資源調査事業）

古谷尚大

## 1. 目的

中海の代表的な漁業で、ほぼすべての魚種の周年的な出現動向を把握しやすいます網と、成魚を積極的に漁獲している刺網を対象にして、魚種や漁獲量を詳細に把握し、中海の有用魚介類の有効活用を図るための基礎資料を収集する。

## 2. 方法

### (1) 標本船野帳調査

刺網 1 地区（江島）、ます網 2 地区（東出雲、本庄）で、漁業者各 1 名に操業日誌の記帳を依頼した。

### (2) 漁獲物買取り調査

ます網 2 地区（東出雲、本庄）において、月 1 回の頻度で全漁獲物の買い取りを行い、出現魚種や体長組成等を調査した。

## 3. 結果

### (1) 標本船野帳調査

今年度の刺網の年間漁獲量は平年（過去 5 年平均、以下同様）よりも約 3.2 トン少ない 4.6 トンで、平年の 59.0% であった（添付資料-表 1）。魚種組成は、ボラとスズキの 2 魚種が漁獲の大半を占めており（89.1%）平年と同様であった。

今年度のます網調査では、東出雲の調査を依頼している漁業者の都合により調査できなかったため、本庄地区についてのみ述べる。（なお、東出雲地区の 8 月までのデータは表 3 に記載する）

本庄地区の年間漁獲量は、平年よりも約 0.6 トン少ない 1.9 トンで、平年の 76.4% であった（添付資料-表 2）。今年度の主要魚種の組成を平年と比較すると、スズキ、マハゼ、マアジ、モクズガニが増加し、アカエイ、コノシロ、サッパ、ウナギ、クロソイ、タイワンガザミが減少した。

### (2) 漁獲物買取り調査

東出雲水域：買い取り調査を開始した平成 20 年以降、今年度 7 月までに東出雲水域で確認された魚介類を取りまとめたところ、魚類が 14 目 40 科の 79 種、軟体類が 1 目 1 科の 2 種、甲殻類が 1 目 6 科の 15 種で、合計 16 目 47 科 96 種であった（添付資料-表 4）。

本庄水域：買い取り調査を開始した平成 20 年以

降、今年度までに確認された魚介類を取りまとめたところ、魚類が 14 目 46 科の 92 種、軟体類が 3 目 3 科の 5 種、甲殻類が 1 目 8 科の 17 種で、合計 18 目 57 科 114 種であった（添付資料-表 4）。

今年度の出現種の組成を尾数割合（添付資料-表 5）で見ると、サッパが最も多く、次いでマアジ、カタクチイワシ、ヒイラギ、マハゼと続いた。

## 4. 結果

本調査によって得られた成果は、「中海及び境水道における漁業に関する鳥取・島根両県協議会」において報告した。